

## 26. 地球環境学舎

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 70 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 71 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

入試制度の改革、奨学金制度、及びダブル・ディグリー制度などによる留学生数の増加策を講じ、令和元年度に留学生率が 50%を超えている。また、日本人学生が海外でインターン研修を行うことを支援しており、修士課程では日本人学生に占める海外インターン実施者の割合は、第3期中期目標期間の4年間で 52%となっている。

#### 〔優れた点〕

- 実践的な問題解決能力の獲得を目指し、環境マネジメント専攻では、修士課程に3か月以上、博士後期課程に5か月以上のインターン研修を必修科目として実施している。
- 特別入試制度（IEMP 入試）の活用と改革、奨学金の獲得などにより、海外からの優秀な留学生の獲得を実現している。留学生率は令和元年度には 50%を超え、アジア・アフリカ・北南米・ヨーロッパなど様々な地域からの留学生とともに日本人学生が学ぶ環境となっている。また、長期インターン研修の制度により（修士課程で3か月、博士後期課程で5か月）、日本人学生が海外でインターン研修を行うことを支援しており、修士課程では日本人学生に占める海外インターン実施者の割合は、中期目標期間の4年間で 52%（105 名中 55 名）となっていて、グローバル人材の養成に貢献している。

#### 〔特色ある点〕

- タイ王国マヒドン大学、インドネシア国ボゴール農業大学、中国清華大学と修士ダブル・ディグリープログラムを締結し、海外からの優秀な学生の獲得に加えて、地球環境問題に強い関心を持ち、その調査・分析、解決のための施策立案・技術開発に積極的に関わる環境マネジメントリーダーの育成に努めている。地球環境学舎修士課程では、修士（地球環境学）の学位を取得することができ、さらに修士ダブル・ディグリープログラムでマヒドン大学を選択した学生は修士（工学）を、ボゴール農業大学を選択した学生は修士（理学）を、清華大学を選択した学生は修士（工学）を取得することができるなど、多様性を持たせたプログラムとなっている。
- 国際共同学位プログラムとして、平成 28 年度にはマヒドン大学（タイ）、ボ

ゴール農業大学（インドネシア）と、平成 30 年度には清華大学（中国）とダブル・ディグリー制度を締結した。これは、修士課程を京都大学で2年（あるいは1年）、提携校で1年（あるいは2年）学修し、科目履修・単位取得を行うとともに、両校の教員の指導により2つの修士論文を提出して、2校の修士号を取得するものである。各大学とは2名ずつの派遣・受入枠を設け、優秀な学生の獲得と協定校との共同指導にあたっている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。